

マルシェ大原野  
お買い物券  
有効期限  
令和3年7月31日  
切りはなし無効  
ナチュラルライフを持ってマルシェにお越しください！

¥100

毎週火曜日と、第1・第3土曜日は、マルシェ大原野の日  
大原野の野菜・加工品の販売『マルシェ大原野』は、地域住民が中心となって運営されています。



売り切れ次第終了



主催/大原野農産物等直売所運営協議会

**マルシェ大原野は7月で5周年を迎えます！**  
美味しく新鮮な大原野の野菜や加工品を地元のみなさんに味わってほしい。と始めたマルシェ大原野も7月から6年目に入ります。日頃の感謝を込めて、7月はポイント2倍に、第1・第3土曜日は先着100名に花の苗をプレゼントします。ぜひお立ち寄りください！

←大原野神社  
大原野小学校  
大原野総合自治会館  
大原野集出荷場  
JA京都中央 大原野支店

火曜日・土曜日販売所  
独特の風味が特徴です。  
端麗な味と、  
純米吟醸酒。土曜日に出品中  
京都洛西・大原野で育った  
祝米を100%使用した

おのばなし のんびり暮らし



大原野では筍（たけのこ）シーズンが終わり、田植えもひと段落ですね。東山の空に朝日が昇りはじめると、鳥のさえずりも聞こえだし、自然の豊さを感じます。朝日や夕日が水田に写る風景を探す、そんなところに小さな楽しみがあります。雨の日には西山にかかった雲を眺めたり、雨の音を聞いているだけで心が落ち着いてきます。

自然がたくさん残っているこの京都西山の麓（ふもと）大原野。私は素晴らしく感じています。同時に未来は、どんな風になっていくのだろう、と考える事があります。皆様はどうお考えですか？お会いした時に思っておられる事をお聞きかせいただくとありがたいです。自然を守りながら、あなたは未来の大原野がどんな風になって欲しいですか？

新たに暮らしていただける方が決まりました！空き室をお持ちのオーナー様、お気軽に改装についてご相談ください。

借家を全改修させていただきました 大原野南春日町



窓を開けるとウグイスがさえずる竹林の借家を全改修いたしました。ナチュラルライフ5月号で紹介したところご覧になった方よりアトリエとしてお使いいただくこととなり、オーナー様とお繋ぎさせていただきました。



ナチュラルライフ 株式会社小野建築設計

建設業許可：京都府知事（特-2）第33008号 宅地建物取引業者票：京都府知事（4）第012179号  
建築士事務所登録番号：二級建築士事務所 京都府知事登録（29B）第01678号  
〒610-1123 京都市西京区大原野上里南ノ町10番地

土地・お住まいの事ならお気軽にご相談下さい  
TEL 075-335-2254  
のんびりぐらしの家 KES ono  
ナチュラルライフ vol.186 2021年6月1日発行 発行/株式会社小野建築設計

毎週水曜日・祝日は  
定休日となっております。  
http://www.ono-k.com  
小野建築設計  
ホームページへは  
QRコードも便利です！



NATURAL LIFE

小野建築設計の地域情報レター  
ナチュラルライフ

2021年6月号

大原野で野菜を育てる担い手へ

大原野春日町であたらしく農業を始められた方々がいます。年齢は31歳から43歳と幅ひろく、それぞれの想いを持ってこの土地に移住されました。世話役の齋藤治喜さんや若手農業家の齋藤圭祐さんと共に、それぞれ農地を借り試行錯誤しながら野菜を育てています。今月号は大原野で挑戦する新規就農者の皆さんにお話を伺いました。



左から大根田篤士さん、齋藤秀稔さん、齋藤圭祐さん、宮奥典さん、大崎里恭さん。それぞれが農業のやり方について情報交換できる仲間。

春日町の農業を担ってきた父・齋藤治喜さんの背中をみて育った圭祐さん。農業仲間の先輩として一緒に未来のビジョンを語ったり、苦勞を分かち合う頼れる存在です。トマトのハウス栽培をはじめ、唯一無二の「しろ菜」の味を守るため治喜さんと手入れを欠かしません。

工場の同僚だった宮奥さんと大根田さん。農業に魅力を感じ京都府の農林水産業担い手育成・就業支援に応募、紹介を通じて春日町へ。それぞれ5反（約4,950㎡）の畑にはナス・オクラ・ズッキーニなど、人気の野菜がならびます。病気でほうれん草が全滅したり、大雨などの天災で苦勞しながらも「自分一人で事業をおこせる魅力を感じて」と新しいキャリアを築いています。



ハウスで育てたトマトは、実が大きくなり5月下旬から出荷が始まります。



大崎さんの畑は、種類が豊富。「いろんな野菜を作ったら面白いかと思って」と自分で計画を立てて育てている。

齋藤秀稔さんは、家族の事情で京都に戻ることになりました。「祖父が兼業で畑をやっていたので」と身近に感じていた農業をはじめ、今年で3年になります。ナスなどが育つ畑は1町（約9,900㎡）もあり家族で取り組んでいます。収穫時期になると、まだ朝日も昇らない朝3時から始まるため会社員時代とは全く違う働き方に。「がんばった分だけ稼げるので夢があります」と話します。



「自分で育てた野菜で料理を出せるお店を持ちたくて」と話すのは、大崎さん。10年間、居酒屋で働いた経験を活かし将来の夢に向けて準備中です。畑はwebサイトで調べたり自分で計画を立ててみましたがうまくいかず、肥料の量やタイミングなど指導者のアドバイスをもとに挑戦し安定してきました。去年は手作業でしたがトラクターを安価で譲ってもらい作業効率が飛躍的に上がったそう。

世話役の齋藤治喜さんは「4人ライバルとして刺激を受けながら成功してほしい。農業はひとりでは成り立たない。地域の人に認めてもらえるよう馴染んでくれたら。」と、話します。大枝・大原野の畑が荒れることなく管理されているのは、こうした農家さんたちの手入れがあつてのこと。なんやかんや大原野や自治体など多くの人の協力のもと次の担い手が育ちはじめていました。